

知床世界自然遺産地域 適正利用・エコツーリズム検討会議

カムイワッカ部会（第18回）議事録

日時：2022年12月23日（金）13:30～16:30

場所：斜里町公民館 ゆめホール知床 公民館ホール

議題：

1. 2022年度カムイワッカ地区の運用状況
2. 2022年度 事業実施結果について
 - (1) 知床ディスタンスキャンペーン
 - (2) シャトルバス運行とマイカー規制関連事業
 - (3) カムイワッカ湯の滝 1の滝以奥の再利用試行事業
3. 道道知床公園線における工事の進捗について
4. カムイワッカ湯の滝の現状と今後の利用のあり方について
5. その他

配布資料：

- | | |
|-------|--|
| 資料1-1 | 2022年度カムイワッカ地区事業実施結果 |
| 資料1-2 | カムイワッカ地区の運用状況について |
| 資料1-3 | カムイワッカ地区の入り込み状況について |
| 資料2-1 | 2022（令和4）年度 知床ディスタンスキャンペーンの実施結果について |
| 資料2-2 | 2022（令和4）年度 シャトルバス運行事業の実施結果について |
| 資料2-3 | カムイワッカ湯の滝上流部試行事業の実施結果について |
| 資料3 | 道道知床公園線の工事予定について |
| 資料4-1 | カムイワッカ湯の滝の現状について |
| 資料4-2 | 今後のカムイワッカ湯の滝の利用のあり方について |
| 参考資料1 | マイカー規制・シャトルバス運行に関する意識調査結果（速報） |
| 参考資料2 | ホロベツ以奥の交通アクセスに係る中長期目標（再掲） |
| 参考資料3 | 幌別地区からのマイカー規制・シャトルバス運行に関する過去3年間の進捗 |
| 参考資料4 | 2022年度 カムイワッカ湯の滝再利用検討業務に係るアンケート調査の実施結果について |
| 参考資料5 | 2022年度 カムイワッカ湯の滝1の滝以奥再利用検討事業 計画 |
| 参考資料6 | カムイワッカ地区の利用のあり方、将来ビジョンについて（再掲） |
| 参考資料7 | 第17回カムイワッカ部会 議事録 |
| 参考資料8 | カムイワッカ部会 設置要綱 |

出席者名簿：

機 関 名	職 名	氏 名
【地域関係団体】		
知床自然保護協会	代表理事	<欠席>
斜里山岳会	会長	遠山 和雄
同	理事	滝沢 大徳
羅臼山岳会		<欠席>
北見地区バス協会(斜里バス株式会社)	代表取締役	下山 誠
北見地区ハイヤー協会		<欠席>
NPO法人 知床斜里町観光協会	事務局長	新村 武志
知床温泉旅館協同組合	代表理事	木幡 純一郎
知床民宿協会	副会長	松田 賢一
ウトロ自治会	会長	<欠席>
知床ガイド協議会	会長	岡崎 義昭
一般財団法人 自然公園財団 知床支部	主任	向山 純平
株式会社ユートピア知床	代表取締役	桑島 繁行
同	取締役 社長室長	櫻井 晋吾
ウトロ地域協議会	事務局	桜井 あけみ
公益財団法人 知床財団	事務局長	高橋 誠司
同 事業部 公園事業担当	参事	秋葉 圭太
同 事業部 保護管理事業担当	参事	石名坂 豪
同 事業部 保護管理事業係	係長	金川 晃大
【関係行政機関】		
国土交通省 北海道開発局 網走開発建設部 技術管理課	上席技術管理専門官	小野 裕二
北海道運輸局 北見運輸支局		<欠席>
北海道警察 北見方面斜里警察署 地域交通課	交通係長	菅原 翔
【専門家】		
北海道大学大学院 農学研究院	准教授	愛甲 哲也 (欠席)
北海道大学大学院 農学院	研究員	金 慧隣 (代理)
【事務局】		
環境省 ウトロ自然保護官事務所	首席国立公園保護管理企画官	家入 勝次
同	国立公園利用企画官	井村 大輔
林野庁 北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター	所長	小田嶋 聡之
同	一般職員	寺田 崇晃
林野庁 北海道森林管理局 網走南部森林管理署	署長	早川 博則
同	森林技術指導官	清水 亜広
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部 維持管理課	道路管理係長	<欠席>
同 道路課	主査(道路)	塩見 秀之
同 事業課	事業課長	<欠席>
同	主査(道路第一)	<欠席>
同	主任	<欠席>
同 保健環境部環境生活課 自然環境係	係長	亀崎 学
同 知床分室	主幹(知床遺産)	椿原 匠
斜里町役場 総務部	部長	増田 泰
同 環境課	課長	結城 みどり
同 自然環境係	係長	吉田 貴裕
斜里町役場 産業部 商工観光課	課長	河井 謙
同	係長	岩淵 聖也
【運営補助】		
公益財団法人 知床財団 企画総務部 公園事業係		吉澤 茉耶
同		茂木 瑞稀
同		米田 紗衣

【開会あいさつ】

環境省（井村）：ただいまより第18回知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議カムイワッカ部会を開催する。開会に先立ち事務連絡を申し上げる。本会議は公開で開催されている。発言は記録し後日議事録としてwebサイトで公開される。記録のため、発言の際はマイクを使用し、冒頭に氏名と所属を述べていただきたい。新型コロナウイルス感染対策としてマイクの除菌、休憩時の換気を行う。本日は悪天候のため、知床自然保護協会の綾野氏、知床ガイド協議会の松田氏、北海道オホーツク総合振興局網走建設管理部の浅野氏、二又氏、谷氏、近藤氏が欠席となっている。また、本日は専門家をお招きしているが、北海道大学の愛甲先生も急用のため欠席となり、代理として研究員の金氏に出席いただいている。開会に先立ち事務局を代表し、ウトロ自然保護官事務所の家入よりご挨拶申し上げる。

環境省（家入）：本日は年末のご多忙な折、天候の悪い中お集まりいただき感謝申し上げます。カムイワッカ部会は、カムイワッカ湯の滝の利用のあり方およびマイカー規制や交通アクセスについて継続的に協議する場となっている。最近ではカーフリープロジェクトとしてホロベツ地区からの新たなマイカー規制や、カムイワッカ湯の滝の1の滝以奥の再利用にむけた試行事業の取組みも取組み始まったところであり、部会の重要性は一段と高まっている。一方で、今年4月に起きた小型観光船の海難事故の影響により、一部事業の変更も余儀なくされている。知床国立公園の利用におけるアクティビティリスクに対する関心も高まっており、当部会の議論としても重要なポイントになると考えている。本日は、今年度第1回目の部会として、事業の実施結果の報告に加え、今後の事業の方向性について協議する予定である。皆様の忌憚のないご意見をお願い申し上げます。

環境省（井村）：それでは議事に移る。司会進行は斜里町役場の増田総務部長にお願いする。

【議事】

1. 2022年度カムイワッカ地区の運用状況について

資料1-1、資料1-2について、知床財団（秋葉）が説明

資料1-3について、環境省（井村）が説明

斜里山岳会（滝澤）：資料1-3の令和4年度硫黄山登山口特例申請の実績が掲載されているが、硫黄山登山口の利用者カウンターデータとの整合性はいかがか。

知床財団（秋葉）：利用者カウンターの保守管理を請け負っているため、弊財団より回答す

る。本年度は、登山口のカウンターデータの集計を他社が担当しており、まだ集計中であるため整合性については確認できていない。例年の傾向では、カウンターデータによる推定人数が特例申請利用者数の1.5倍以上となっている。

斜里山岳会（滝澤）：了解した。

2. 2022年度 事業の実施結果について

(1) 知床ディスタンスキャンペーン

資料2-1について、知床財団（金川）が説明

（質疑無し）

(2) シャトルバス運行とマイカー規制関連事業

資料2-2について、環境省（家入）が説明

参考資料1について、北海道大学（金）が説明

参考資料2、参考資料3について、知床財団（秋葉）が説明

<参考資料1 概要>

- 調査は7月、8月および10月に実施した。7月は、紙のアンケートとウェブアンケートの両方を実施し、8月と10月はウェブアンケートのみを実施した。
- アンケートの結果については、異なる政策下での利用者意識を把握するために、調査時期別に比較した。またバス利用者と非利用者に分けて比較し、違いについて分析した。
- シャトルバス乗車率については、8月は約6割、10月は5割となった。シャトルバスに対する認知度や支持は、バス利用者が非利用者より高かった。
- 10月の調査結果について、望ましいシャトルバスの待ち時間、バス限定体験ツアーに対する参加意思ともに、バス利用者と非利用者に大きな差は見られなかった。感想については、シャトルバスの乗換の仕組みは分かりやすかったが、マイカー規制の事前周知は充分ではなかったという回答が多かった。
- シャトルバス乗車を検討するにあたり利用者が重視する項目について選択型実験を行ったところ、ニーズの異なる3つのグループに分かれることが分かった。それぞれ、①比較的時間に余裕があり、シャトルバスに乗車して様々な体験をし、じっくりと知床を楽しみたいタイプ（34%）、②時間に余裕がなく、カムイワッカまで行くことに興味がないタイプ（17%）、③目的地としてカムイワッカが重要なタイプ（50%）となった。
- 考え方として、①タイプの利用者の割合は全体の3分の1であるため、魅力を付加したバスの運行頻度は高くなくてよいが、全体の半分を占める③タイプの利用者はカムイワッカが目的地であり、バスの待ち時間は短い方を好む傾向があるため、カムイワッ

カ行きのバスは比較的頻繁に運行することで満足度を高めることができる。

- シャトルバスの認知や支持について、過去3年の中で経年変化はほとんどなく、有償化した2022年も比較的支持が高かった。

斜里町（増田）：資料2-2は今年度の事業結果、参考資料1は今年の利用者意識調査の結果および過去3年間の比較、参考資料2はオータムバスデイズの本来的な目標、参考資料3は過去3年間の全体的な事業の総括結果となっている。まずはマイカー規制を伴わない5月と7月のバス増便に関する部分について、ご質問等あれば伺いたい。

一同：（質疑無し）

斜里町（増田）：次に8月の従来方式のマイカー規制とシャトルバス運行の部分についてご質問等あればお願いします。

一同：（質疑無し）

斜里町（増田）：続いて10月のオータムバスデイズの取組みについてはいかがか。事務局より構成団体の皆様に、過去3年間の事業全体に対する結果や評価について伺いたい。斜里バスはご意見いかがか。3年間それぞれの状況も含め伺いたい。

斜里バス（下山）：特にない。

観光協会（新村）：2点質問させていただきたい。まず1点目、参考資料1の2ページ目、シャトルバス乗車の有無について8月と10月それぞれの結果が示されている。8月のバス乗車率が6割であることについては、知床五湖までマイカーで行く利用者もいるため理解できる。しかし10月について、ホロベツからマイカー規制しているのに乗車率が5割ということは、知床に来られた方のうち5割しか知床五湖に行かないという解釈になるか。

北海道大学（金）：ご質問感謝する。今回解析に使用したサンプル数が10月については254と小さいため、そのような解釈が可能かどうかについて断言はできない。

観光協会（新村）：承知した。2点目の質問であるが、資料2-2についてバスチケットの合計販売実績が示されている。販売場所は道の駅うとろ・シリエトクと知床自然センターの2ヶ所であったが、内訳はどうなっているか。

知床財団（秋葉）：道の駅と自然センターで乗り換える利用者数の割合は概ね3：7、多い時で4：6となっており、過去3年間で比較しても大きな変化はない。逆に言えば、道の駅を乗り換え場所にすると、3割～4割の利用者は道の駅で乗り換えると言える。

観光協会（新村）：臨時駐車場の利用実績はかなり少なかったが、道の駅正面駐車場に駐車してシャトルバスに乗り換えた利用者もいたため、道の駅からの実際のバス利用実績を把握したかった。

斜里町役場（増田）：その他、ご質問・ご意見等あるか。この3年間は、新型コロナの流行や観光船の遭難事故等の影響を大きく受けており、結果の解釈や評価は難しいところである。

ウトロ地域協議会（桜井）：参考資料1について質問する。シャトルバスの乗車率に関するデータについて、このアンケート調査はどこで実施したのか。

北海道大学（金）：10月に実施した調査については、バス利用者にはバスチケット販売時に、非利用者には道の駅と知床峠でアンケートを配付した。

ウトロ地域協議会（桜井）：了解した。この3年間は地元の我々から見ても、通常の知床の観光の動きが全くなかった。その中でも、コロナ禍とはいえ昨年や一昨年はある程度の観光利用があったが、今年は観光船の事故が起き、8月に知床五湖で過去初めて渋滞が発生せず、ウトロの町中も閑散としていたので、試行事業のデータを取るのには難しいだろうと感じた。3年間の実施結果を分析・評価して、将来に向けて計画の中へ反映していくタイミングではあるが、状況的に難しいのではないかと思っていた。事故の影響に関連して、今年は過去2年間のデータと比較しても特異だったと言えるか。

知床財団（秋葉）：桜井氏のご指摘された点は現場の感覚とも一致している。特に7月以降については観光入り込みの少ない状況が続き、7月の連休、8月のお盆ともに知床五湖でほとんど満車や渋滞が発生しなかった点は、かなり特殊な状況であったと言える。現在マイカー規制とシャトルバスの運行事業を実施しているが、入り込みが少ない状況では混雑対策としても実施する意義が問われることになるし、採算性も悪化するため、事業の継続も困難になる。

ウトロ地域協議会（桜井）：コロナ禍での実施という点については過去3年間を通じて共通していると思う。特に初年度はGo Toキャンペーンの効果もあり、北海道内の近隣市町村から日帰りですぐ来訪する利用者が増加した。その後、飛行機での移動を伴う旅行に対す

る支援も全国的に増えてきた。従来であれば秋は道外より近隣市町村からの利用者が増加する時期ではあったが、今年に関して道内・道外の割合が分かるデータはあるか。

知床財団（秋葉）： 10月の3日間については、2020年度は特に道内の割合が高かったが、2022年度は逆転し、湯の滝試行事業のアンケート調査の結果からは道外の利用者が20%程度多いという結果となっている。

斜里町役場（増田）： 今年のバスデイズ期間は道外からの利用者の割合が高かったとのことである。事務局側として、この取組みは知床の将来を見据え、未来の知床を作ろうという気概で取り組んできた。コロナ禍に続く観光船事故と、実務者レベルでも心がくじけるような状況であるが、事故後でありアフターコロナという意味でもしっかりと次の絵を描かなければならない。しかしながら、思い通りにならない要素も多く、データも充分とはいえない。シャトルバス事業に関しては事務局からも来年度の具体的な提案が用意できていない。本日の資料は事務局側から見た総括ではあるが、一方で地域側から見てどうだったのか意見を伺いたい。今後目指すべき方向性について、カムイワッカ地区、あるいは知床五湖も含めて、うまく利用していただくためにどのような環境を整えるのかを問われている。事務局だけでなく地域の皆さんと一緒に考えていきたい。長時間経過したため、10分間の休憩をはさみ再開する。再開後にご意見を伺う。

<休憩>

斜里町（増田）： 時間になったので再開する。ではご意見があればお願いします。

知床財団（高橋）： 新方式のシャトルバス運行に関して、試行期間は残すところあと1年となり、3年目の試行をどう取扱うかが課題である。現実的に検討にあたっての重要なポイントは、3年後のイメージとして設定されている中期目標を見通して来年度の事業を組み立てられるかどうかだ。新方式のシャトルバス運行は、複数の課題を同時に解決できる方法である。8月の単純な混雑対策のためのシャトルバスと比較すると、公園内で発生するヒグマと人の軋轢を軽減すると同時に、バス自体が楽しいコンテンツになるモビリティサービスという面で異なる意味がある。そのようなポジティブなアクセス事業の3年後のイメージとして、「将来目標1 実施期間の延長」が挙げられている。本事業は、北大の意識調査に見る通り利用者評価も高く、科学委員会のWGでもヒグマとの軋轢対策の観点からぜひ継続して進めるべきだという意見もあった。一方で進める上では、継続的な実施体制、地域合意、資金という3要素が課題となっている。当初予定では、2023年度は9月のシルバーウィークに実施することになっているが、秋の3日間だけイベントとしてバスデイズを継続してもこの目標に近づいていくとは思え

ないため、現在のような多大なコストをかけて実施し続けることには課題がある。新方式によるバス事業は知床財団としても進めたいが、現状の枠組みで進められないのであれば、何らかの形で持続的な方式に移行していく必要があると思う。例えばカムイワッカに至る道路、特に五湖-カムイワッカ間をどう取り扱うのか、というような議論が必要なのではないか。

観光協会（新村）：事業予定の確定については、来年度にならなければ財源が確定しないため難しい点は承知しているが、周知の時期をできる限り早くし、利用者が旅程を検討する前に告知できるよう願います。周知を早くすることで、旅行者の行動がどう変化するかにについてもデータが得られると考える。

斜里町（増田）：どんなことをするにせよ、周知は早い方がよい。

ウトロ地域協議会（桜井）：知床財団の高橋事務局長の発言に関連して、現状は3年後の到達目標の達成が見通せる状況ではないと見ている。当初は、地域からの不安の声もあり、試行事業を通じて、将来を見据えた知床観光のあり方と交通利用について知見が得られ、将来的な知床の価値を高めるものに繋がればと考えていた。しかし、前提条件である社会情勢自体が大きく変化しており、実証実験を行うのにふさわしいのか疑問である。今後目指すべき方向性については、バスに乗車することによって知床の魅力をいくつも体感できるような運行体制の提供を目指すべきだと考える。ガイドの解説や野生動物観光に限らず、知床らしい景色や原生林を体験できるような移動手手段になり得ることが必要だと思うが、それに関する検証や協議はどこで行われていたのか。また、誰がどんなイメージを持って整備を進めていくのか質問したい。2点目の質問であるが、「将来目標5」に挙げられている「自立運営体制の構築」について、10月のバスデイズについては、今年の実績が30%減少したとのことであるが、もし今年の実績が昨年並みであったら、有償化したことにより採算が取れる見込みだったのか。

斜里町（増田）：1点目について、最終的には本部会で決定していくものである。アイデアについては、今後は事務局と構成員でお互いに出し合っ、協議しながら決定していくことになると思う。将来目標自体は変わるものではないが、3年で達成することは難しいという認識だと理解した。本日そこから議論する時間は無いため、今後改めて時間を取り協議していく。

斜里町（吉田）：ご質問の2点目、収支について回答する。コロナの影響が続いていたため収入は大きく見込めないと考えており、当初の予算では乗車実績は去年の60%、収入は180万円程度を見込んで予算を立案した。結果的に8月の乗車数の減少に加えて、10月

も状況は変わらず予算を下回る収入となった。

ウトロ地域協議会（桜井）：8月の乗車人数が少なかった時点で収支均衡は見込めなかったと思うが、そういった部分も含めて全体の収支バランスはいかがであったか。

斜里町（吉田）：多くの収入が見込みづらいのは承知していたが、過年度の実施結果との比較も考えて減便等の事業縮小はせずに実施した。

ウトロ地域協議会（桜井）：前回の部会で、赤字になった場合はどのように補填するのか質問した。今年度事業の具体的な収支結果を教えてください。斜里町からも負担金が支出されているが、当初予算に収まったのか。今後計画を考えていく上で押さえておかなければいけない点である。

斜里町（吉田）：斜里町から赤字見込み額 210 万円を協議会へ負担金として支出している。

斜里町（増田）：今年度は様々な要因があったにせよ、将来目標5の達成は厳しい状況であることは否めない。事務局としても、収支バランスは重要と認識しており、この課題への対応を踏まえて今後の事業について次回に提案させていただく。いったんシャトルバス関連の協議はここまでとし、次の議題に進ませていただく。

（3）カムイワッカ湯の滝1の滝以奥の再利用試行事業

資料2-3、参考資料4について、斜里町（河井）が説明

斜里町（増田）：本件については次の議題4と併せて協議させていただく。

3. 道道知床公園線における工事の進捗について

資料3について、オホーツク総合振興局網走建設管理部（塩見）が説明

斜里町役場（増田）：道道知床公園線の工事の進捗について質問があればお願いします。

斜里山岳会（滝澤）：カムイワッカゲートから硫黄山登山口までの区間について、のり面の落石対策工事が進んでいることについて、令和5年に登山口までの工事が終了するようだが、完成後は現在の通行止め区間が解放されるという理解でよろしいか。

網走建設管理部（塩見）：資料3表面の図面で緑色に着色されている部分について、現況写真を示しているのので、左側の写真を見ていただきたい。斜面に岩が露出している部分に

落下防止のため過去に金網で固定した部分がある。一部この金網に老朽化が見られ、安全面について見直しおよび設計を行っているところである。落石対策工事が終了した時点で、有識者を交えて同区間の通行について検討を行う予定であり、現時点では開放できるかどうかについて回答はできない。

斜里山岳会（滝澤）：承知した。

4. カムイワッカ湯の滝の現状と今後の利用のあり方について

資料4-1、資料4-2について、斜里町（河井）が説明

<要点>

- 1の滝までの区間（下部区域）について不安定岩塊および露頭岩塊落下の可能性があり、1の滝以奥（上部区域）と同程度の落石の危険性があるとの認識に至った。現在はそうした危険性について認識せずに利用している状況であるため、下部区域の利用のあり方を見直したい。
- 試行事業の対象区域を拡張し、下部区域を上部区域に組み込むことにより、完全に閉鎖することなく利用を継続できる可能性について検討を進めたい。立ち入り人数を1日150人に制限し、レクチャー受講を必須とする。現在の利用者数は年間約35,000人だが、人数制限により約15,000人に減少する。一方、レクチャー受講やヘルメット装着等を義務とすることにより安全性は向上し、4の滝までの利用が可能になる。

斜里町（増田）：資料4-1、資料4-2についてご質問があればお願いします。これまで、1の滝より下流側は自由に利用できたが、落石のリスクがあることが分かった。一方、1の滝よりも上流側においては、利用のあり方に関する試行事業が始まっているので、その利用形態を下流側に広げることにより全面閉鎖を回避できないか、という内容である。

斜里町（河井）：補足する。参考資料7として配布している前回の議事録をご参照いただきたい。前回のカムイワッカ部会（第17回）の場で皆様からご意見を頂戴し、その結果カムイワッカ湯の滝の利用のあり方や、カムイワッカゲート以奥の利用、あるいはカムイワッカに至る道中の魅力向上などについても、この場で一緒に協議して行くことになっていた。本来であれば、先にその議論をした上で、湯の滝の位置づけについて整理しなおす流れが望ましかったが、こちらが急務となったため順序が逆転していることを併せてお伝えしておく。

斜里山岳会（滝澤）：カムイワッカ湯の滝でヘルメットを着用する場合、上部・下部区域ともに、行動に伴う傷害の防止、すなわち転倒等による頭部の保護という意味合いが強い。

ヘルメットは落石に対して安全を保障するものではない。落石に対する防護が必要だ
というのであれば、落石対策として工事等でここまでやったが、まだ危険が残っている
ためこのように対応します、という説明が必要ではないかと思う。

斜里町（河井）：落石に対し、ヘルメットにより充分に守られるものではない点については
承知している。手続きやレクチャー受講、誓約書への同意といったプロセスの中で、カ
ムイワッカ湯の滝のリスクを周知し、ヘルメット装着が必要なほど注意が必要なエリ
アであることを認知していただくのが狙いである。

斜里町（増田）：どちらかという、リスクがあることの情報公開を主眼に置いた制度の提
案であり、情報の出し方がポイントになる、という考えである。

民宿協会（松田）：海難事故をうけて、各所で安全管理に関してかなり厳格になっている。
その中で、調査の結果から落石の危険を認知したのに、その危険を除去せずにヘルメッ
トを使用して利用者を立ち入らせる、というのは考え難いのではと思うが、いかがか。

斜里町（河井）：完全に閉鎖した方がよいというご意見か。

民宿協会（松田）：落石の危険性がある部分には工事を行い、できる限りの安全性は担保し、
その上でまだ危険が残るのであればヘルメットを着用して利用するというのであれば
分かるが、指摘された危険性に対しては何の対処もせずいきなり利用のあり方の検
討に入るのは危険ではないかと思う。

斜里町（河井）：落石そのものについてはおっしゃるとおりであるが、そもそもカムイワッ
カは登山同様に転倒、滑落の危険があり、ヒグマとの遭遇も多く、落石や増水と言った
様々な自然体験特有のリスクがある場所である。ただし、登山者と一般観光客の常識に
は乖離があるため、少なくともカムイワッカを訪れる一般観光客には、その点をしっか
りと認識していただき自ら五感を使って安全管理することとセットでなければ、利用
していただくことはできない。足腰に不安がある方等にはご遠慮いただく方が望まし
いということになる。安全を重視し過ぎると、知床では行ける場所が非常に限られてし
まうため、全体的なバランスを考えた上でこういった提案とした。

民宿協会（松田）：今回指摘された危険性がどの程度で、それをどう評価してヘルメット着
用での利用にするとの判断に至ったのか知りたい。調査結果について共有していただ
けるか。

斜里町（河井）：調査結果については、専門家からの意見を踏まえた考察がまだ出そろっていない。現時点では、湯の滝の右岸側（橋から見上げた場合左側）斜面は、仮に公道であれば落石防護柵の設置が必須である危険レベルだが、左岸側は比較的lowリスクではないかと聞いている。そういう意味で「右岸側は注意が必要なのではないか」という指摘であった。そういった情報を利用する方にも確実に伝えるような体制を取りたい。カムイワッカ湯の滝の利用のために、公道と同様に右岸側の尾根筋全体に落石防護ネットを設置する工事をすべきだとは考え難い。であれば危険に関する認識を利用者と共有していくしかないのではないかと、という考え方である。

ウトロ地域協議会（桜井）：民宿協会の松田氏の発言については同意する反面、本日提案されている利用形態を採用しないのであれば全面的に立入禁止になるということである。カムイワッカ湯の滝は非常に気持ちの良い場所で、再訪を希望する方も多い。知床は本来、ある程度自分でリスクを認識したうえで利用する場所であるという位置づけは、これから必要になってくるのではないかと思う。利用者に対しリスク周知した上での利用について検討を進めてもよいのではないかと。確認したい点であるが、2021年7月に発生した落石に対する専門家の見立てはいかがか。従来から発生していた程度のものであり、リスクが突然高まったわけではないのであれば、利用を想定しても良いのではないかと。

斜里町（河井）：これまでの専門家の見解は、1の滝までの斜面は傾斜も緩く植生があり上部が見えないので大きな心配はないというものだった。しかし、斜面を歩いて見たところ浮石があったため、今年はシーズン初めに浮石を落とす作業を実施した。しかし、その作業を続ければ安全性を確保することができるという確信も持てない。ドローンを用いた調査によると、アプローチできない部分にも浮石が多数あり除去やネット設置等も現実的ではない。一方で、落石が発生する確率が極めて高いわけでもないため、注意喚起して利用するのが現実的であると考えている。

自然公園財団（向山）：新たな利用に取り組むか、もしくは閉鎖するか選択を迫られている状況と認識している。今年度のカムイワッカの取組みの中では、観光船の事故で実施を見送った部分もあった中、現地に斜里町と知床財団で巡視員を配置して運用していた。同時に、自然公園財団としてもカムイワッカの仮設トイレの清掃やゴミ拾い、滝の巡視等を実施し、巡視員と共に現地の安全確認や利用者案内を行っていた。私が着任した当時も、巡視員として現地で利用者への情報提供や安全管理に当たっていた。もし仮に新たな方法を運用していくとして、現地管理のため人員配置が必要であれば、若干名にはなるが自然公園財団として現場に職員を出す意思があることをお伝えしておく。知床支部として協議会の一員として、新たな利用に取り組む際は参画させていただきた

い。

知床財団（高橋）：町から提案のあった、下部区域について一部制限を加えながら限定的に開放していくという基本的な方向性については賛成する。しかし、現地の魅力だけを高め、現地に管理コストをかけるという方向性には同意しかねる。オペレーションや枠組みを考える際に重要なことは、制度自体が分かりやすいこと、レクチャーや利用の手続きの簡素化、利用者負担をいただいて回す仕組みを整える、という3点であると考え。拠点毎に制度や運用が異なり、目的の異なる手続きやレクチャーが並列し、それぞれに対して人員配置やコストをかけるという形は望ましくない。やはり、手前にある拠点施設にきちんと機能を集約させた面的な管理の枠組みが必要であり、そのためにアクセスのあり方が要になるという点をお伝えしておきたい。

斜里町（増田）：大きな枠組みについては今回提案させていただいている通りだが、現地人員の配置人数や実際の運用体制についてはこれから詳細を詰める必要があるし、アクセスのあり方の部分でシャトルバスの運行にも影響する話である。大筋としてこの方向で検討を進めていくことに対し承認いただけるようであれば、詳細について検討し、次回の部会までにご説明させていただく。また、2月のエコツーリズム検討会議においても、本提案について報告する必要がある。本日の時点では大筋の部分についてご確認願う。ご了承いただけるか。

一同：（了承）

斜里町（増田）：感謝申し上げます。では運用体制の詳細については今後関係機関にご意見、ご協力いただきながら検討を進めさせていただく。3月の部会の前に一定程度の案をお示ししたい。地域の皆様にご協力をお願いする。

5. その他

ユートピア知床（桑島）：マイカー規制により民間への影響がかなりあるという点について共有させていただく。オータムバスデイズの3日間は売店の売上げが顕著に減少している。調査したところ、客単価（1人当たりが購入する金額）が約25%も減少していた。今後3年間程度の試行期間をもって中長期的な方向性を決めていくとのことであるが、マイカー規制の期間延長を検討される際には経済のあり方についても含めて検討していただければ非常にありがたい。IUCNからの一番最初の指摘にも経済と環境保全を両立せよとある。バスデイズの3日間だけ客単価が減少する理由については我々も分析を進めるが、こうした影響についてご承知頂いた上で今後の方向性について検討を進めていただきたくお願い申し上げます。

斜里町（増田）：客単価が減少したのは知床五湖と道の駅の両方においてか。

ユートピア知床（桑島）：知床五湖の話である。道の駅については分析中であるが、最終的に分からないのではないかと思う。客単価が25%減少するということは、純利益が5%ということである。もし仮にホロベツ以奥のマイカー規制期間が延長されるようであれば、利益が出なくなるため、知床五湖の店舗を維持するかどうかという問題にも発展する。我々も一緒に検討し協力しながらやっていきたい。

斜里町（増田）：貴重なデータを共有していただき感謝する。様々な側面についてどのような影響があり、その影響が何に基づくものなのか、客観的なデータをしっかり分析しながら制度設計をしていくことは必要だと思う。他にも何か情報があれば教えていただきたい。他にあるか。

斜里山岳会（滝澤）：カムイワッカ湯の滝の下部区域の利用についてももう一度話をさせていただきたい。先ほど河井課長より、これまで安全面で不安がある方も利用しているという話があった。今回の変更に伴い、上部区域の利用に危険が伴う利用者については下部区域も利用できないことになり、カムイワッカの楽しみ方が大幅に変わってしまう点については皆様もお気づきかと思う。現況的に難しいかもしれないが、ユニバーサルな、例えば体が不自由な方や高齢者でもカムイワッカのお湯に触れるような工夫や設備も欲しい。上部区域の制限利用を下部区域まで下げる際には、4の滝までの利用と、それができない場合の楽しみ方を併せて提案する必要があると考える。

斜里町（増田）：湯の沢だけではなく、園地としてどういう場所を作っていくか、という点については引き続きこのカムイワッカ部会で議論していく必要がある。ご提案いただいた部分についてはすぐに実現できるものではないかもしれないが、出発点としてこうであったらよいなというイメージは重要であるし、その議論はこの部会の中で進めていきたいと思う。
他にあるか。なければ事務局にマイクをお返す。

環境省（井村）：それではこれにて第18回カムイワッカ部会を閉会する。
次回は2月下旬から3月に開催を予定している。日程調整にご協力をお願いします。

以上